

令和7年4月15日

宮崎県和子牛産地基盤強化計画

指定協会名：公益社団法人宮崎県畜産協会

1 和子牛産地基盤強化に係る方針

本県は、国内有数の肉用牛の産地であり、農業産出額及び飼育頭数が全国第3位と、全国各地に向けた肉用子牛の供給基地であるとともに、酪農及び肉用牛生産は本県地域経済を支える重要な産業となっている。

近年、全国的な和牛枝肉価格の低下や飼料価格の高止まり等により子牛価格の低迷が続き、本県においても価格低迷の影響を受けた和牛繁殖農家の離農が進むなど、和子牛の生産基盤が危機的状況にある。一度生産基盤が崩壊してしまうと、元に戻すのは容易ではなく、また本県経済にも多大な影響を及ぼすことから、和子牛生産基盤の維持・強化は喫緊の課題となっている。

このため、本計画において、本県内で取り組み得る和子牛生産基盤の維持・強化に資する取組を位置付け、県内和子牛生産者にこれらの取組の実施を奨励する。

ア 地域内の自給飼料の生産・利用

肉用牛経営の生産コストに占める飼料費の割合は高く、経営維持のために飼料費の低減が重要となる中、ウクライナ情勢、円安の進行等による資材・エネルギー価格等の高騰を受け、輸入に依存する飼料を始めとした生産コストも上昇・高止まりしている。このため、持続的な肉用牛経営の実現を目指すに当たって、国産飼料の生産・利用拡大により、国際情勢に左右される輸入飼料の依存度低減を進める必要がある。

本県内における取組として、国産飼料の確保を図る観点から、栄養価の高い飼料作物等の生産・利用拡大や、草地や耕作放棄地等における放牧の更なる活用等を促進する。また、自給飼料生産のみならず耕畜連携等による粗飼料等の確保も推進する。このほか、食品製造副産物等といった地域の飼料資源の活用についても推進する。

イ 早期出荷に向けた地域内一貫生産

持続的な畜産経営の実現を目指すに当たり、生産コストの低減に資する取組として、短期肥育・出荷月齢の早期化の取組がある。慣行肥育に比べ肥育期間が短縮されることにより、飼養コストの低減が図られ、また、適度な脂肪交雑の牛肉が生産されるなど多様な消費者ニーズにも対応することから、本県においても早期出荷に向けた取組を推進する。

肥育牛の早期出荷のためには、繁殖経営における和子牛の出荷月齢の早期化や、肥育経営での飼育直しが不要な子牛の生産が求められることから、地域内において繁殖経営と肥育経営が一体となって取組を行うことが重要となる。このため本県内においては、繁殖経営と肥育経営が参画し地域内一貫生産に取り組む部会等における地域の子牛生産マニュアルに準じた飼育直しが不要な素牛の生産、繁殖農家における出荷月齢の早期化等の取組を推奨する。

ウ 需給に応じた生産

近年、全国的な繁殖雌牛の増加や酪農経営における和牛の受精卵移植の増加により和子牛の出生頭数は増加する中で、和牛肉の生産量は堅調に推移している。このような中、物価高が進行し、消費者の生活防衛意識の高まり等が見られ、和牛肉の需給は緩和し、枝肉価格は低迷している。持続的な畜産経営を行うためには、需給状況を把握し、将来的な需給環境の変化を予測し生産を行うことが重要となる。また、近年では消費者ニーズが多様化していることや和牛生産においては特定の種雄牛に利用が集中していることにより近交係数が上昇していること等から、需給状況のみならず様々な外部要因の変化に対応した生産が求められている。

このため、各地域において定期的な勉強会等を開催する中で、各畜産経営においては国の公表情報等を基に需給動向を把握し、需給状況の変化に応じた生産を行えるように努めることを推奨する。また、種雄牛の選定にあたっては、別表に示すような利用上位 15 頭の種雄牛に偏ることがないように配慮する。

別表 全国の家畜市場を集計した利用上位リスト

No	名号	登録番号	No	名号	登録番号	No	名号	登録番号
1	梅華福	黒原 5979	6	貴隼桜	黒原 5976	11	福之姫	黒原 5689
2	紀多福	黒原 6059	7	夏百合	黒原 5815	12	安亀忠	黒原 5908
3	北美津久	黒 15433	8	二刀流	黒 15391	13	百合美	黒 15380
4	耕富士	黒原 5400	9	秀幸福	黒原 5406	14	百合未来	黒原 5996
5	関平照	黒原 5986	10	福之鶴	黒 15451	15	若百合	黒原 5553